■強く ■正しく ■明るく ■清く　～夢いっぱい　笑顔いっぱい　希望あふれる柏っ子～

♦学校だより♦

開校 大正９（１９２０）年

Obihiro Kashiwa Elementary School

かしわ

帯広市立柏小学校

保護者・地域との

より強い 絆 をめざして

令和7年1月16日　26号

令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果より

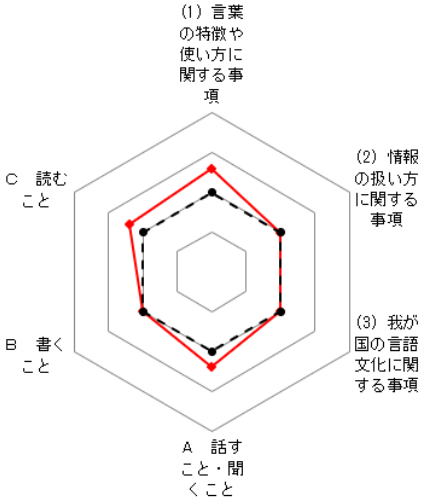
『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる』『そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』ことを目的として小学校第６学年で毎年行われている「全国学力・学習状況調査」が、令和６年４月１８日（木）に全国一斉に行われました。本校児童の学力の様子を分析・対策とともにお伝えいたします。

柏っ子の学力について（国語）

グラフは、全国平均正答率を黒の点線で表した時の本校の平均正答率を赤の実線で表したものです。

本校

全国（公立）



＜国語の結果と分析＞

正答率は全国平均を上回りました。

○記述式の問題における無解答率が低く、最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。

○話し言葉や書き言葉の違いなど、言葉の使い方に関わる問題の正答率が全国平均を大きく上回りました。

●選択式の問題において、問題をじっくり読まないことによる誤答がみられました。

●記述式の問題において、決められた字数で書く、決められた言葉を使って書くなど、複数の条件を満たして解答することを苦手とする傾向がみられました。

●漢字を正しく書くことに課題がみられました（競技の「競」の漢字）。

＜対策＞

・文章を書く活動を意図的に設定し、正しく漢字を活用したり、目的に合った書き方ができたりするよう指導していきます。

・単元テストや小テストを中心に、問題をよく読んで解答する力を育てていきます。

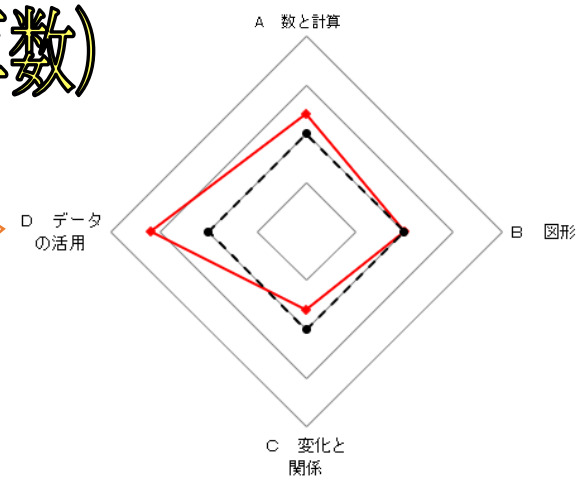
・ＩＣＴを最大限に活用しながら、友達の考えと比較したり自分の考えに取り入れたりするといった協働的な学びを推進します。

柏っ子の学力について（算数）

グラフは、全国平均正答率を黒の点線で表した時の本校の平均正答率を赤の実線で表したものです。

本校

全国（公立）



＜算数の結果と分析＞

正答率は全国平均を上回りました。

○国語同様、記述式の問題における無解答率が低く、最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。
○データの活用に関わる問題の正答率が全国平均を大きく上回りました。
●算数の学習に対する苦手意識が強い傾向がみられます（質問紙調査より）。
●解答に導く根拠を、式と言葉で説明する問題に課題がみられました。
●文章問題において、問題をじっくり読まずに誤った式を書く傾向がみられました。

＜対策＞

・普段の授業から、基礎・基本の定着（四則演算の定着）を目指し、指導していきます。
・必要に応じて、習熟度別学習・少人数学習を実施し、学習内容の確実な定着を目指します。
・算数に対する苦手意識を減らせるよう、「できた」「わかった」授業を目指します
・ＩＣＴを最大限に活用しながら、友達の考えと比較したり自分の考えに取り入れたりするといった協働的な学びを推進します。

児童質問紙調査の回答より

＜児童質問紙の結果と分析＞

○自分の生活に満足しているという児童の回答が８割を超えました。
○同じ時刻に寝たり起きたりする児童の割合など、規則正しい生活を実践しているという児童の回答が９割を超えました。
○家庭では、計画を立てて１時間以上勉強をしている児童の割合が全国と比較して高いことがわかりました。
●学校生活をよりよくするために、学級会で話し合い、解決方法を決めていると回答した児童が少ないことがわかりました。
●地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと回答した児童が少ないことがわかりました。
●１日４時間以上、動画視聴やSNSをすると回答した児童の割合が、全国平均と比べ大幅に高いことがわかりました。

＜対策＞

・学校生活や地域・社会をよりよくしようと考える児童が増えるよう、他者と関わる活動を大切にしたり、異学年交流を積極的に取り入れたりするキャリア教育に力を入れていきます。
・「学校が楽しい」と思える児童が増えるよう、全教職員で協力し、明るく元気な学校を目指していきます。
・動画視聴時間やSNS活用の時間が減るよう、ICT機器活用におけるきまりの確認や、適切な活用方法について、都度児童と確認していくとともに、ご家庭でも、スマートフォンやタブレット活用のきまりについて、お子さんとお話しいただけるよう情報発信に努めていきます。